

平成 26 年 1 月の解説（府県天気予報）

【1 月の天候状況】

上旬は、北日本から西日本にかけては、数日の周期で気圧の谷が通過し、その後は冬型の気圧配置となる日が多くなりました。8 日から 9 日にかけての気圧の谷の通過時には、太平洋側でも広い範囲で雨や雪となりました。沖縄・奄美では、寒気や気圧の谷の影響により曇りや雨の日もありましたが、高気圧に覆われて晴れる日もありました。旬降水量は、北日本日本海側ではかなり多く、東日本太平洋側、西日本で多くなりました。

中旬は、北日本を中心に強い冬型の気圧配置となり、全国的に寒気が流れ込みました。北日本から西日本にかけての日本海側では、曇りや雪または雨の日が多く、太平洋側では晴れの日が多くなりました。沖縄・奄美では曇りや雨の日が多くなりました。旬を通じて気温は全国的に平年を下回る日が多く、旬平均気温は全国的に低くなりました。旬降水量は、北日本日本海側では多い一方、東・西日本太平洋側ではかなり少なく、北日本太平洋側、東・西日本日本海側、沖縄・奄美で少なくなりました。

下旬は、旬のはじめは冬型の気圧配置となり、北日本から西日本にかけての日本海側では曇りや雪、太平洋側では晴れ、気温は全国的に平年を下回りました。その後は、期間の中頃と終わりに気圧の谷が通り、南から暖かい空気が流れ込んで、全国的に気温が平年を大幅に上回りました。その他の日は、東・西日本と沖縄・奄美では移動性高気圧に覆われた日が多くなりました。沖縄・奄美では、日照時間が平年の 247% となって統計を開始した 1961 年以降最も多い値を更新しました。旬平均気温は、西日本でかなり高く、北・東日本、沖縄・奄美で高くなりました。旬降水量は、北日本では多くなる一方、沖縄・奄美ではかなり少なく、東日本日本海側で少なくなりました。

月平均気温は、西日本で高くなりました。月降水量は、沖縄・奄美でかなり少なく、3 地点で 1 月の月降水量の少ない方からの 1 位を更新しました。また、北日本太平洋側、東日本日本海側で少なくなりました。一方、北日本日本海側でかなり多くなりました。月間日照時間は、東・西日本、沖縄・奄美でかなり多く、北日本太平洋側で多くなり、24 地点で 1 月の月間日照時間の多い方からの 1 位を更新しました。降雪の深さ月合計は、東日本ではかなり少なく、北日本、西日本で少なくなりました。月最深積雪は、東・西日本を中心に平年を下回るところが多くなりました。

【1 月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は例年値（注）より 3 ポイント高い 85% で、明後日予報は例年値より 2 ポイント高い 82% でした。各地方の適中率では、明日予報は、多くの地方で例年値より高く、東海地方で 5 ポイント、沖縄地方で 9 ポイント高くなりました。明後日予報は、多くの地方で例年値より高く、特に東北・東海・近畿・中国・九州南部・沖縄地方で例年値より 5～7 ポイント高くなりました。

明日の最高気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.2 小さい 1.3 でした。各地方の予報誤差では、例年値と同じか小さくなりました。最低気温の予報誤差は、全国平均では例年値より 0.1 小さい 1.5 でした。各地方の予報誤差では、例年値と同程度か小さくなりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【3 月の天気予報の利用にあたって】

3 月になると日本付近で冬型の気圧配置が続くことは少なくなり、高気圧と低気圧が交互に通過して、数日の周期で天気が変わることが多くなります。また、暖かくなった日の翌日に気温が急速に下がるなど、天気の変化や気温の変動が大きくなるので、最新の天気や気温の予報を利用し健康管理等に注意して下さい。